



社会医療法人近森会

発行

2015年7月25日

びろっば

8

Vol.349

www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel.088-822-5231 発行者●近森正幸 / 事務局●寺田文彦

近森会グループの管理部新体制

常に先を目指して

管理部 部長 寺田 文彦

本館建築5カ年計画の終了に合わせて、管理部は新体制でスタートすることになりました。高齢・重度化と高度化を併せ持った医療を展開する高度急性期医療の救急現場においては、リアルタイムに、かつさまざまな診療支援を行うことが必要となってきます。一方で、患者さんをはじめ職員、保険者、地域の医療機関などから選ばれる病院でなければ、これからは生き残っていくことができません。

新しい地域医療ビジョンのもと、時代の趨勢を読んで、的確な判断ができる管理部長として貢献していきたいと思っています。

てらだ ふみひこ

三つの課で

総務部 部長 谷 知明

総務部には総務、経理、秘書の三つの課があります。総務課は職員の入退職や異動、勤怠管理や給与等の総務全般のほか、初期研修医の研修管理委員会や教育研修に関する事務、広報業務、健康管理センター、電話交換室、保育室等幅広く関わっています。

経理課は財務・会計を通じて法人の成果を目に見える数字として表し、安定的に運営管理できるよう業務を行っています。秘書課は各診療科等に配属され、業務のサポートを行っています。各課長と共に診療現場を支援させていただきますのでよろしくお願いいたします。

たに ともあき

精度の高い支援を

診療支援部 部長 山崎 啓嗣

診療支援部は企画課、医事課、診療情報管理室、システム管理室、施設用度課の5部署（130名）で構成されています。職務範囲は多岐にわたりますが業務内容に応じて医科医療事務管理士、診療情報管理士、医療情報技師、二級建築士、防火対象物点検資格者、医療ガス保安技術者等々、専門的な有資格者が配置されています。

各部署に共通する点は、いずれも直接的に診療現場を支援するということです。診療支援部が組織化されて今年で10年。「進化し続ける近森会グループ」のマネジメントを担当する部署として精度の高い支援を行い、常に頼られる部門でありたいと思っています。

やまさき ひろつぐ



管理部長 寺田 文彦



※施設用度課は4月より診療支援部に再編されました。

平穏な院内環境を願って

危機管理室 室長 上村 和宏

危機管理室は2名体制で各棟内外の巡回、トラブル発生時の現場対応、患者さんや職員の安全、安心に関する諸活動、診療時の警戒、警察などからの問い合わせや取次ぎ、各種クレーム対応を業務とする渉外部と、南海トラフ大地震対策、消防訓練、災害医療講習会の補助等防火防災に関する企画実施業務の災害対策室に分かれています。

職員からの各種相談にも対応できますので気軽にご相談ください。

かみむら かずひろ

新しいプレート固定法 — MIPO 法 — の普及

近森病院整形外科
統括部長 衣笠 清人



関節内骨折や関節から骨幹部にまで及ぶ粉碎骨折に対しては残念ながら髓内釘固定法では対応できないことが多いので、骨折部を展開して整復してからプレート固定するのが一般的です。ただし手術侵襲が大きく術後の皮膚壊死や感染の危険性が高いという欠点がありました。

そこで1990年代後半から2000年

代前半にかけてMIPO法という低侵襲術式が考案され徐々に普及してきました。これは骨折部にはメスを入れることなくプレート設置部位の両端を少しだけ切ってプレートを滑り込ませて固定する方法です。

この方法は2000年代前半のロッキングプレートの開発によりさらに発展してきました。従来のプレートはその固定力をプレートと骨との摩擦力に依存していました。すなわちスクリューを締めて骨をプレートに強く引

き寄せる必要がありました。これだと少しでもプレートと骨表面の形状が合っていないとせつかくの整復位が崩れてしまいます。

ロッキングプレートはプレートとスクリューヘッドがねじ固定される構造で骨をプレートに引き寄せないため、このような欠点が解消されました。さらに骨表面を圧迫しないために血流障害も軽減され、またロッキングに伴う角度安定性による固定力向上など二重三重の利点があります。欠点はX線透視を多用するための被曝量増加と骨折の整復そのものが技術的に困難であるということです。しかし利点の方がはるかに大きく最近では骨折部を大きく展開するという術式は本当に少なくなりました。

きぬがさ きよと

8月の歳時記

留紅草 (ルコウソウ)

近森病院

放射線科看護師 吉本 典子



実家では毎年時期が来るとルコウソウが生えてきます。華奢なつるはモール状でくるくると軒の柱に巻き付き、柱は緑の飾りをつけたみたいになります。夏ごろに2cm位の赤い星形の花がちらほら咲きます。花を咲かせる前から、生き生きとした緑色に癒され、花が咲いても控えめな姿がかわいらしい8月のお花です。

よしもとのりこ



絵・近森病院
附属看護学校事務局
公文幸子

近森看護学校通信 3

校外研修

6月23日(火)～24日(水)の1泊2日で、国立室戸青少年自然の家に行ってきました。クラス全員がチーム一丸となり成し遂げるための能力開発と健全な心身鍛錬の場とすることを目的に、山や海で校外研修を行いました。

試験の合間を縫っての研修だったので、おもいきり楽しむことは難しかったかもしれませんが、「自然観察フォトビンゴ」や「オーシャンキャック」などで豊かな自然に親しんだり、野外炊飯や宿泊などの団体生活を通して学生相互および学生と教職員との交流を深めることができましたと思います。

上総満高



▲カレーライスを作る前にたまねぎを持って、はいポーズ。



▲2人1組でバディを組み、点呼開始！1・2・3・・・
▲上手に進むにはバディとのチームワークが大切！

急性期から退院後の生活を 患者さんと共に考える

近森病院救命救急病棟
看護師長 森澤 恵



2014年8月にA棟が完成し、高度医療が提供できるハード面が整いました。救急搬送の件数も増加しており、ERではより多くの救急患者を受け入

れ、より多くの人を助けようと頑張ってくれています。救命救急病棟はそうした患者さんをスムーズに受け入れ、ERが次の救急患者を受け入れられるようにERの後方病棟として運営しており、昼夜を問わずに多くの患者さんが入室されます。

私たちは、救命病棟に入室されている間に、安心して治療を受けていただくことはもちろんですが、急性期から日々の関わりの中で患者さんと一緒

に、退院後の生活を考えて行きたいと考えております。高齢化が進む中、ゆっくり入院療養できていた時代から、早期退院、自宅復帰へと医療の在り方も変わってきています。急性期に安心して治療を受けられた後、退院後の生活をどうしたいのか、患者さんの自律性を引き出し、支援し、またその看護を継続できるようにスタッフと共に取り組んでいます。

また、それを可能にするのが、近森病院の強みでもあるチーム医療だと思います。医師、看護師だけでなく病棟配属のMSW、リハビリスタッフ、管理栄養士、薬剤師と、それぞれの専門分野からの意見や情報を共有しながら、患者さん個々に合った看護の提供を目指しています。

チームワークよく、今後も患者さんと共に笑顔になれる救命救急病棟でありたいと思います。

もりさわ めぐみ



「PS 通信」 2

PS グッズのご紹介！
～ participant satisfaction
(参加者満足) ～

皆様、日々の業務お疲れさまです。今回は我々PSサポーターが作成をした「とあるモノ」を紹介いたします。遡ること4年前、印象の悪い電話対応(名前を名乗らない・ぶっきらぼうetc)の撲滅を目指して、総合心療センター各部署に「電話対応のポイント」を箇条書きにしたカードを配り歩きました。ほとんどの部署が電話機付近に貼り付けてくれた結果、「電話の受け答えが丁寧になった」「気持ちが良い」とのコメントをいただきました。

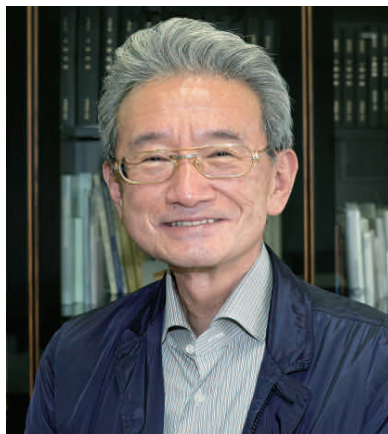
このカード運用にERのPSサポーターも関心を示し、ER用にアレンジしたカードを作成しました。印象良い電話対応についてご関心のある方は、いつでもPSサポーターへ声をかけてください。カード、お渡しします。

↓こちらがそのカード

電話対応：電話の受け方

- ① すぐに出る
- ② メモの準備をする
- ③ 部署・職種・名前を名乗る。
「〇〇病棟 看護師〇〇です」
- ④ 最初の挨拶を忘れない。
「お世話になっております」「こんにちは」
- ⑤ 相手確かめる。
- ⑥ 用件を確認し、復唱する。
- ⑦ 最後の挨拶を忘れない。
- ⑧ 相手が切ったのを確認し静かに受話器を置く。

されど「モリソバ」



近森 正幸

2年前に蕎麦のことについて書いたことがある。あれからさらに2年、以来一週間に一回、季節を問わず蕎麦を食べに行っていると、実感として蕎麦の艶やかさや旨さ、デリケートさがひしひしと伝わってくる。

初秋に収穫した玄蕎麦から殻を剥いた「丸ヌキ」を、真空パックにして保存しているそうだが、蕎麦の素材はもちろん、熟成加減、気候や温度、湿度、さらに打つ人のその日の状態が変わってくる。

毎週のように食べているからこそ、

蕎麦の繊細さがわかるような気がする。「丸ヌキ」の外側の甘皮部分を多く入れることで、うま味は増すがその分喉ごしが悪くなる。その日、その日の「丸ヌキ」の状態や挽き方で蕎麦粉も変わるし、いかに甘味を引き出し食感をよくするか、無限の組み合わせがあるようだ。

シンプルななかにも和食のような素晴らしさとこだわりがある。年をとったせいかも知れないが、しっかりしたフランス料理をワインと共に味わうこともいいけれど、蕎麦の簡素で豊かな味わいにも魅力を感じている。

昨年は玄蕎麦の出来も良く、香りの高い新蕎麦が熟成を経てうま味を増していく変化を一年中楽しめた。今年は不作で、玄蕎麦の出来も不揃いで初夏のころになって、いつか蕎麦が夏バテしたこともあったが、最近前はと同様、美味しい蕎麦を食べさせてもらっている。

蕎麦粉の挽き方やその配合、加水加減や打ち方、ほんの数秒で差が出る茹で加減、大将の並々ならぬ努力を感じた。たかが「モリソバ」だが、一生をかけるに値する奥深さを秘めている。

理事長・ちかもり まさゆき

「乞! 熱烈応援」

変化に応じて柔軟に



近森リハビリテーション病院
理学療法士主任 村上 野志夫

近森会に就職し11年目になりました。本院からリハ病院、訪問リハ、海外ボランティアと経験してきましたが、今になり、たくさんの人々に支えられていたことを実感します。

11年の間に部署が大きくなり、求められる仕事内容が変化してきたと思います。その変化に柔軟に対応し、一主任として私自身も支えになれるよう、尽力していきます。

むらかみ やしお

リレー エッセイ

姪っ子にメロメロ♪

近森オルソリハビリテーション病院
6階病棟介護福祉士 池田 朱理

私には姪っ子が二人います。5歳と1歳の女の子。二人とも姉の子供です。正直「姪っ子」というものが、こんなに可愛いものとは思っていませんでした。何が可愛いって、私に懐いてくれるところがいちばん可愛らしく、また癒される時間でもあります。下の子は最近人見知り激しく、私に抱っこされると大泣きして暴れます。つい先日、姉から子守りを託され、私が抱っこして面倒みていました。ところが、ずっと泣き続け、どこへ連れて行くにも大泣きの状態でした。たった2時間の子守りでしたが、泣き声にのぼせてどっと疲れました。

たまにしか会えないから愛情もいっぱい注げるし、泣いても子守りの終わりが分かるから踏ん張れました。それに比べ、毎日毎日面倒を見ている親は、休みがないのでほんとうに大変なのだ、つくづく感じたことでした。嬉しいことに先日、弟にも第一子である男の子が誕生しまし

ハッスル研修医

二年間を精一杯に



初期研修医 伊藤 いづみ

愛知県名古屋出身、趣味はスポーツ全般（時間ができたら何か始めたいです）とドラムとドライブ（運転するのも、乗せてもらうのも。カッコいい車が好きです!!）です。今年はどうとう長年の夢だったよさこいに出られることになり嬉しいです。

近森病院での研修が始まり毎日予

想のはるか上をいく忙しさではありますが、充実感も想像以上で当直や症例検討会での発表が終わる度に少し成長できたような気が…自分ではしています。近森病院はどの職種をとってもプロフェッショナルの集まりで圧倒されましたが、そのような環境で研修できる二年間という短いチャンスを、精一杯生かしていきたいと思います。研修医をファーストコールにさせていただけるおかげで、患者さんの急変時の対応や治療方針、社会的なこと等を考える機会を持つことができ勉強になっています。

頼りない研修医に話をするのは余計な手間となってしまうこともあるかと思いますが、力をお貸しいただけると幸いです。 いう いづみ

ザ・RINSHO 27 薬剤部 1

薬剤の適正使用を推進

近森病院薬剤部
部長 筒井 由佳



近森病院薬剤部では1991年、薬剤師の専門性をチーム医療に活かすこと

を目標に、一部病棟で週1回、半日だけの病棟業務を開始しました。そして、院外処方箋発行を機に、外来患者さん中心の調剤から、入院患者さんを中心とする病棟業務へと、業務を転換することになりました。

2010年からは「薬のあるところに薬剤師あり」の言葉通り、薬剤部内だけでなく集中病棟を含むすべての病棟に薬剤師を配置し、処方監査、調剤、製剤業務の他、患者さんへの服薬指導、スタッフからの薬剤に対する問い合わせへの対応、持参薬の管理、腎機能に応じた投与量の提案、薬剤相互作用の確認などさまざまな業務を行なっています。薬物療法では避けられない副作用にいち早く気づくことも重要な役割です。

薬剤師の仕事は単に薬を調剤して渡すことではなく、一日も早く患者さんに元気になっていただけるよう、医師や看護師等のスタッフと協力して薬剤の適正使用を推進し、薬物療法に貢献することとして取り組んでいます。

つつい ゆか



た。二人の姪っ子と一人の甥っ子に、また楽しみが増えました。と同時に、また色々買ってあげたくなり出費もかさむことでしょうか……。

でも、全く惜しくないのはやはり特別な可愛さがあるからでしょうね。もうしばらく、私の母性は3人の可愛い子供たちに並々と注がれていく予定です。

いけだ あかり



在院日数短縮を目指して ～大腿骨頸部骨折のパス～

近森会グループクリニカルパス委員会委員長
近森病院整形外科部長 西井 幸信



▼各職種より10名が発表



合併症のある大腿骨頸部骨折患者さんが経年的に増加している現状を踏まえて、「なぜ在院日数を超過したのか」についてバリエーション分析を中心に、社会的背景や骨折型、合併症による超過要因などを幅広く発表しました。

今回は、通常のパス大会に加え、大腿骨頸部骨折地域連携合同ミーティング共催として開催したため、回復期側からの発表も行いました。

分析の結果、87.5%以上が正のバリエーションとして平均術後8.25日と早期

他施設29名を含む152名が参加した



に退院していたため、術後14日設定だったものを「術後7日目で退院可→10日までに退院」するなど改定も行いました。今後もこうした取り組みを続けていきたいと考えています。

にしい ゆきのぶ

ワイン講座 ● 34

ぶどう品種を知り、個性を探る 白ぶどう その11

イタリア篇 コルテーゼ

イタリアは、面積のその殆どが海に囲まれ、北部にはアルプス山脈、内陸部にアペニン山脈があり、山岳地帯や沿岸部が混在した複雑なミクロ気候（局地的な気候）が混在する国です。

全土20あるすべての州で「その土地の気候風土に即した」ワイン作りが行われています。土着品種と呼ばれるオリジナルのぶどう品種の数は、なんと2000種類以上といわれ、ヴァリエーション豊かなワインが造られています。

前回に続き、イタリアを代表する辛口白ワインのひとつ、ガヴィもこの品種から造られています。原産地は、ピエモンテ州といわれ、イタリア北部のロンバルディア、リグーリア、ヴェネトの各州で盛んに栽培されています。

ガヴィ／ヴィツラ・スパリーナ／イタリヤ、ピエモンテ州●ガヴィの優れた生産者として国内外で長い間高い評価を得てきています。また、この種のワインの生産者としてトップ・クラスの座を揺るぎ無いものとしています。品質向上の過程には、ぶどうの収穫量の徹底的な削減を行い、一粒一粒の栄養分を高めるため、房の下部1/3を切り落とすという徹底ぶりです。

薄くグリーン色を帯びた麦藁色、リンゴや花の様な華やかで複雑な香りを持ち、味わいは、きりっとした酸味と爽やかな果実味とのバランスが取れたものが多く存在します。これからの季節にはびつたりの味わいです。

鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）



私の趣味 家庭菜園



臨床工学部
西村 哲



昨年の秋頃から近所で畑を貸してもらい、作物を栽培しています。ほうれん草、水菜、小松菜、人参、レタスなど、耕して畝立てした畑に種や苗を植え、無農薬で栽培しています。そのため多くの作物は野鳥と虫に食べられてしましますが、2月頃にはレタスや大根は少量、水菜や小松菜は食べきれないほど収穫でき、とくにほうれん草の甘味は強く、お店に並ぶ野菜に負けなぐらいの出来でした。

今春から玉ねぎ、キャベツ、じゃがいも、ナス、南瓜、サラダ菜、オクラの種まきの時期を数週間ほど間隔空けて行い、長い間収穫できるようにしています。育苗場所を確保して、作物によっては種から苗を作り、畑に植えてみたところ、5月に入ってからサラダ菜やニンニク、玉ねぎが少しずつ収穫できるようになってきました。

野菜作りは土づくりが重要で、農家の方に話を聞いて「堆肥は入れた方がいいよ」「米ぬかを入れると野菜が甘くなるよ」などとアドバイスをくれます。透析室では患者さんからも畑の心配をしてもらったり、苗をいただいたりといろんなことを教わっています。

野菜作りはサボってしまうと生育に影響してしまい、小まめに手入れが必要なので、できた野菜に愛着も湧き、今までなら捨てていた野菜の茎や皮などからベジブロス（野菜の出汁）を取り、大事に食べるようになりました。

にしむら さとし

● 参加者 ●

心臓血管外科部長 入江博之、心臓血管外科 衣笠由祐
 近森病院看護部長 吉永富美、手術室 楠瀬由美、施設用度課 宮下公将

初のニューヨーク



近森病院
心臓血管外科 衣笠 由祐

▼家族と一緒に回診風景



何もかもスケールの大きい国でした。12時間のフライト後、人生初のニューヨークへ足を踏み入れました。空が見えないほどの高層ビル街、帰宅ラッシュとしてもあまりに混沌とした交通渋滞、平和な田舎育ちには刺激が強すぎました。

ニューヨークでは米国胸部外科学会 (AATS) Mitral conclave という僧帽弁に特化した会に参加させていただきました。2014年に改訂されたAHAガイドラインに基づく最新の治療指針や、Robotic surgery、経カテーテル的僧帽弁逆流症治療であるMitraclip等先進的な治療も学ぶことができました。日本での全国学会も未経験な自分にとって、その規模も含め非常に意義深い2日間でした。

ニューヨークからウィスコンシン州都マディソンへ移動し、ここではウィスコンシン州立大学を中心に病院や施設の見学をし、大学病院では偶然にも心臓移植の現場に立ち会う機会に恵まれ、臓器摘出から植え込みまで見学できました。時間的な制約もあり、真夜中からの活動でしたが、無事移植された心臓が他人の体内で拍動を始めた時、何とも表現しづらい不思議な感覚と感動を覚えました。

英語に関しては、英会話教室に通った成果はまったく出ず、空港のセキュリティチェック担当者にため息混じりに『Language!』と助けを呼ばれる醜態も晒しました。翻訳こんにやく(「ドラえもん」より)が頭を何度もよぎりました。今後も日々自己研鑽を続けていかなければと再認識させられた有意義な研修でした。

きぬがさ ゆうすけ

▶ウィスコンシン州立大学病院で



スペシャリストの活躍



近森病院
看護部長 吉永 富美

ウィンスコンシン州立大学病院 (UW) と St. メアリー病院を見学、NP (ナース・プラクティショナー Nurse Practitioner) と PA (フィジシャンアシスタント Physician Assistant) の活動を見ることが出来ました。NP、PAは60年代に始まり、80年代に急速にアメリカの医療に広がりました。

PAは手術助手を行い、手術記録を書き、術後は回診、処置も行います。医師の助手であり、研修医に近いと感じました。大学院2年(最近はオンライン授業などで働きながら学習し3年)で修士号をとり資格を得ます。

NPは看護師の実務経験後大学院へ進学し2年(働きながら3年)で修士号をとり、資格を得ます。診察、処方ができ(向精神薬は精神科のNPの資格が必要)、開業も可能です。術前管理、回診前の診察、必要な検査、処方の指示、退院前の薬剤チェックなどを行っていました。自宅やナーシングホームへの退院患者や家族に電話で状態を確認し、相談等も受けています。早期退院による患者、家族の不安軽減につながると感じました。

UWでは系列クリニックなども含めて約340名のNP、PAが働き、心臓胸部外科、循環器内科、血管外科はそれぞれ一つのチームとして活動していました。心臓胸部外科は医師5名、NP、PAは9名でチームを組みPAは夜勤もあります。NP、PAとも看護部には所属せず独立した職種として活躍し、チームでの信頼も厚く、医師、看護師にとってなくてはならない存在だそうです。25~28年の経験のNP、PAもあり、皆元気で自信に満ちていました。また看護師はスキルも高く、NP以外にもマネージャー(看護管理専門の看護師)を目指す人も多いそうです。日本でも専門看護師、認定看護師が増えており、今年から特定行為に係る看護師の研修制度も始まります。こうした専門性の高いスタッフを活かすための人員配置や業務の調整、連携の強化がより必要であると感じました。

よしなが ふみ

2015年4月22～5月2日

● 訪問先 ●

ニューヨーク・米国胸部外科学会 (AATS) Mitral conclave
 ウィスコンシン州・UW (ウィンスコンシン州立大学病院)
 St. メアリー病院 (Private Hospital)

手術見学を通して



近森病院手術室
 看護師 楠瀬 由美

今回ウィスコンシン州のマディソンのウィスコンシン州立大学病院において、2日間にわたりおもに手術の見学をさせていただきました。

昨年の12月より始まったTAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)やロボット操作によって行うCABG(冠動脈バイパス術)など、当院でも行っている手術や、まだ日本でも多く導入されていない最先端の手術などさまざまな手術の見学をさせていただきました。

そのなかでも、今回いちばん印象深かったのは研修の2日目に急遽、心臓移植手術が入り、見学することができたことです。

アメリカでは年間約2,200件、ウィスコンシン大学病院では年間約40件ほどの心臓移植が行われているそうです。それに対して日本では年間およそ30件と、アメリカに比べると件数はかなり少ないといえます。

日本では件数も少なく、限られた施設でしか行われていない手術を、今回見学することができ、かなり貴重な体験になりました。

さらにドナーの臓器摘出手術が行われている病院が車で行ける距離であり、臓器摘出手術から見学することができました。そして臓器の運搬車にも乗せていただき、臓器移植の一連の流れを見ることができました。

手術の手技的には、当院でも行っている手技の応用といった印象を受けました。研修に行く前は、アメリカでの



▲臓器の運搬車

医療は全て最先端なのだろうというイメージでしたが、近森病院も世界で引けを取らないと、海外から見て感じました。

研修での体験を、今後の手術室看護に活かしていきたいと思います。

くすのせ ゆみ

第2回看護部オープンホスピタル開催

人材確保担当

看護師長 中島 久美

毎年、看護師確保の一環として、看護学生と看護師を対象としたオープンホスピタルを開催しています。

今年度は7月4日に2回目を開催し、8名とちょっと少ない参加でしたが、スライドによる病院説明と各院案内と質疑応答を実施しました。少ない分参加者とのコミュニケーションが十分とれ、却って充実したオープンホスピタルとなりました。

なかじま くみ



新シリーズ ● 近森卒業生のいま ●

2005年度初期研修医 1

なんでも主体的に参加して



近森病院循環器内科
 科長 古谷 敏昭

大学6年のとき、たまたま見学にきた近森病院で心臓カテーテル検査・治療の面白さにひかれ、また当直を一人でバリバリとこなす若手医師に感銘を受け、近森病院で研修を受けることに決めました。当時は一期生ということもあって現在のようにしっかりとした研修システムはできていませんでしたが、その分、逆に一生懸命なんでも主体的に参加して、なんでもやってみる、そんな研修生活でした。

ときには頑張りすぎて体調を崩し、外来で点滴してもらったり、ちょっと入院したり……、などが何度かありましたが、今となってはいい思い出です。現在は心臓カテーテル治療を中心とし、相変わらず忙しい日々を送りつつ、今後始動する予定の心臓リハビリ外来に向けて少しずつ勉強中です。

こたに としあき

▶ 2005年度初期研修医の入社写真



低侵襲治療の経緯と これからの発展



近森病院心臓血管外科
部長 入江 博之

さまざまな技術の発達により、カテーテル等を使った低侵襲治療が行われるようになりました。第1回の特別講演に、これ以上ふさわしい方はいないという大阪大学倉谷徹教授にお越しいただきました。

大動脈ステントグラフトの自家作

成、日本への商用ステントグラフトの導入、また TAVI の国内治験や指導の最先端を走っておられます。

今回はこれら低侵襲治療の過去からの経緯、更に今後の発展していくであろう方向についての示唆に富む内容を、吉本の一流芸人も真っ青といったユーモアあふれる大阪弁でお話しいただきました。

▼講師の大阪大学低侵襲循環器医療学教授の倉谷徹先生



参加者は他施設医師 15 名を含めた 94 名と会場に入りきれない盛況でした。偶然ではありますが、この日に当院は TAVI 完全独立をしました。

いりえ ひろゆき

日本心不全学会チーム医療推進委員会教育セミナー

2015年5月15日

▼日本心不全学会
チーム医療推進委員会山科章委員長
(東京医科大学第二内科主任教授)



栄養と運動を考える

近森病院
副院長 浜重 直久



高齢化社会を迎え、心不全の入院患者さんは増加の一途をたどっています。近年の薬物治療、冠動脈インターベンション、心臓外科手術の進歩などによって劇的に改善する症例も増えていますが、重症心機能低下や弁膜症などを伴う高齢の患者さんでは、せっかくよくなって再入院を繰り返すことが少なくありません。

こうしたなか、生活指導、服薬指導、減塩や栄養サポート、リハビリなど医師以外の職種も含めた心不全のチーム医療の重要性が指摘されています。

この度、日本心不全学会チーム医療推進委員会山科章委員長のお骨折りで、平成 27 年 6 月 21 日(日)、「心不全患者の栄養と運動を考える」というテーマで、近森病院管理棟で教育セミナーが開催されました。

セミナープログラム

(敬称略)

内容	担当講師
チーム医療に必要な心不全病態の知識	北岡裕章 (高知大学)
急性心不全の栄養サポート	宮澤 靖 (近森病院)
慢性心不全の栄養サポート	宮島 功 (近森病院)
〈ランチョンセミナー〉心拍数を考える	山科 章 (東京医科大学)
心不全の運動療法	前田秀博 (近森病院)
心不全患者のセルフケア支援	鷺田幸一 (兵庫県立尼崎病院)
終末期心不全のケア	大石醒悟 (兵庫県立姫路循環器病センター)
事例検討会	渡邊雅貴、山科 章 (東京医科大学)

中四国を中心に、医師、看護師、理学療法士、管理栄養士などの多職種 130 名強が参加し、多岐にわたる講演

と熱気あふれる質疑応答がなされ、有意義なセミナーとなりました。

はましげ なおひさ

～北館 3 階に図書スペースが新設されます～

図書室 西川 菜穂

当院では病気の治療に日々向き合われている方に、治療とは別に何か癒される空間、時間をご提供できればと考え、2008 年に患者さんのための図書室「近森文庫」を開設しました。

開設当初は 300 冊だった蔵書数も、当院スタッフや患者さんからの図書寄贈を得て、開設 7 年目で 3,000 冊を突破しました。従来の外来センター 2 階、本館 B・C 棟 5 階・本館 A 棟 7 階の図書スペースに加え、新たに北館 3 階にも図書スペー



スを新設しました。

読みやすい小説や漫画等もあり、入院患者さんやご家族の方には貸出も行っていきますので、ぜひお気軽にご利用下さい。

にしかわ なほ

第二回中国四国関節超音波研究会

2015年6月28日

▶前列右から2番目が筆者

ハンズオンセミナー

近森病院

リウマチ・膠原病センター部長 公文 義雄



チーム医療は当院の牽引力の一つでもあります。そのスタッフ教育は重要で難しいです。この度6月28日

(日)、検査技師の実技講習(第二回中国四国関節超音波研究会)を当院で開催することができました。

関節超音波は現在リウマチ診療には欠かせないモダリティであり、高知をはじめ中国、四国各県からほぼ定員の参加をいただきました。

大西郁子先生(宇多津病院)と三崎健太先生(倉敷中央病院)の基本技術の指導に加え、池田啓先生(千葉大学)の最新の話題と実技指導で最高のセミナーにいただきました。地域の病院や診療所のスタッフ教育という後方支援も地域医療支援病院の仕事であり、今後も続ける予定をしています。

開催にご尽力いただいた西森美佐子先生(だいいちリハビリテーション病院)に深謝いたします。

くもん よしたか



日本循環器学会国際トレーニングセンターより感謝状をいただきました

県内開催 150 回の内 100 回以上を当院で

近森病院循環器内科
部長 窪川 渉一



が在籍し、コース運営の主メンバーとして指導にあっています。

くぼかわ しょういち



AHA(アメリカ心臓協会)のACLS、BLSはAHAの資格を持ったインストラクターが指導する心肺蘇生トレーニングコースで、院内で行われているBLS、ICLSコースと比べるとその内容や専門性がより深まったものになっています。

2004年より高知県内でも開始され150回を数えますが、うち100回以上のコースが近森病院を会場にして開催

されました。近森病院には9名(医師5名、看護師4名)のインストラクター



お弁当拝見 35 「おにぎらず」



高知市北部地域高齢者
支援センターえのくち出張所
所長 山本 百合



我が家のお弁当は、6時半に出勤する長男、高校生の次男と私の3人分。食べ盛りで「魚はえいき肉入れて」手抜きしておかずが少ないと「詰まってなかったき、もっと詰めて入れて」など言いたい放題! 悩みの種でした。以前、若いス

タッフが「おにぎらず」を持ってきていたのを思い出し、早速チャレンジ♡野菜、肉、魚、ハムなど何でも入れて、お弁当箱もぎっしり詰まるので気分爽快!



大好評♡ 最近は老犬キングの散歩をしながら明日のメニューを考えてます。

やまもと ゆり

ニューフェイス

①所属②出身地
③最終出身校
④家族や趣味のこと、自己アピールなど

おめでとう

2015年6月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	18,760人
新入院患者数	939人
退院患者数	943人
近森病院（急性期）	
平均在院日数	13.88日
地域医療支援病院紹介率	58.77%
地域医療支援病院逆紹介率	127.97%
救急車搬入件数	466件
うち入院件数	246件
手術件数	466件
うち手術室実施	317件
→うち全身麻酔件数	177件

● 2015年6月 県外出張件数 ●

件数 84件 延べ人数 159人

図書室便り (2015年6月受入分)

- Disorders of the shoulder : diagnosis and management Volume.3 Shoulder trauma 3rd ed / volume editor, Joseph D. Zuckerman
- The shoulder: Master techniques in orthopaedic surgery 3rd ed / editor, Edward V. Craig
- ビジュアル・セミナー臨床咬合学入門 / 寺西邦彦 (他著)
- 事態対処医療 Tactical Medicine Essentials / 事態対処医療研究会 (監訳)
- 神経病理を学ぶ人のために第4版 / 平野朝雄 (他著)
- カラーアトラス神経病理第3版 / 平野朝雄 (編著)
- 糖尿病療養指導ガイドブック 2015 糖尿病療養指導士の学習目標と課題 / 日本糖尿病療養指導士認定機構 (編著)
- そのまま使える医療安全対策ツール PDF データ 125種 / 坂口信子
- 高齢者施設の看護記録見える化する書き方 / 岡村絹代
- IABP・PCPS・CHDF・ペースメーカー動画で解説! アラーム&トラブル対応 /

編集室通信

はじめまして。新人のひろっぱ編集委員です。ひろっぱ8月号が発行されるころには、就職して4カ月が経ちます。人見知りの性格ですが、広報・教育研修担当として、いろいろな部署と関わりがあり、有無を言わず、あちこちに電話をかけたり直接うかがったり…と積極的にならざるをえない環境です。(笑) そのおかげで、たくさんの職員の方と顔見知りになれそうです!

小松

荒木康幸 (編著)

- 査定・返戻対策と効果的な症状詳記改訂6版 / 桜井雅彦

《別冊・増刊号》

- 別冊医学のあゆみがんゲノム研究の進歩 網羅的解析からの知見 / 柴田龍弘 (編)
- 別冊・医学のあゆみ癌幹細胞 / 赤司浩一 (編)
- 月刊 Medical Technology 別冊超音波エキスパート 15 頸部エコーのスクリーニングとステップアップガイド / 来住野修 (他編)
- 日本医師会雑誌第144巻特別号(1) 生涯教育シリーズ 88 ロコモティブシンドロームのすべて / 大江隆史 (他編)
- 腎と透析 Vol.78 増刊号糖尿病と腎疾患 2015 / 『腎と透析』編集委員会 (編)
- Emergency Care 2015 年夏季増刊看護師・研修医必携 ER・ICUの薬剤110パッと見てサッと使える! 処方になつとク! / 大野博司 (他編著)
- Nursing BUSINESS 2015 年夏季増刊陣田塾看護の“知の見える化”で現場が変わる! より良い看護実践のための概念化スキル教えます! / 陣田泰子 (編著)

人の動き 敬称略

総合診療科から システム構築へ

救急医療のその先の「希望」

待つばかりではない「攻めの救急医療」をモットーに、高知県ドクターヘリ事業が始まった東日本大震災の翌日、2011年3月12日。その日、杉本和彦部長はまさにそのヘリに乗っていた。県内の主に公的病院で救急医療に携わってきた部長にとっては、ドクターヘリは「救急のその先の医療を実感するきっかけになった」という。「助けることができた命のその先の暮らし」に身を以て思いを馳せるようになる経験は、結果として医者人生に大きな節目をつくることにもなった。

それが2年4ヵ月ほど前、近森会への就職を希望した大きな理由ともいえる。「自由と柔軟性(F & F)の風土」の近森会で、救急のその先の医療に関わることに夢ばかりではない「具体的な希望」が描けた。総合診療科、またの呼び名を地域医療支援科として昨年1月、近森病院に開設したのは、地域との関わりのなかで、全人的医療を実践できる若手医師の育成を目指すことが、大きなテーマになる。さらにいえば、総合診療科は、「地域の医療機関と近森病院各科との橋渡し」の役割を担う。

将来的には、地域との循環のなかで医師を育てながら、育った医師が地域に戻ってからも、急変時には患者さんと近森病院が太いパイプでそのまま関わり続けられる、それを「システムとして構築する」という目標もある。

専門医が力を結集する総合診療科に

杉本部長にとっては、いまのところ、近森会のなかで「具体的な動きが出せないままに、カンバンばかりが整う」ことへの焦りがあるようだが、いまの時期に「総合診療科の目指すものをしっかりとお示しする」ことは、意義深いのではないだろうか。

救急医療の現場では諸先輩から「救命救急センターは小さな病院だと思

え！」と教えられた。各科の専門医がそれぞれの専門性を保ちながら力を結集することで救急医療の真髄が発揮できる。杉本部長には、近森会の現状が、まさにこの「優れた先生方を中心としたチーム医療が整っており、科を超えた力の結集が可能」と映るのだろう。

ところで、病院を離れた地域との関わりではボランティアに精出している。土日ごとに郡部で診療に携わっているし、小児救急のための講習会の講師も務める。救急車が来るまでに率先して救助活動ができる一般住民を育てる教育制度の立ち上げにも関わるなど、「病院の外ではけっこう動いているんですが…」という自負はある。

しかし、近森会のスタッフには「総合診療科が何をやろうとしている科なのかは、まだまだ分かりにくい面もあるでしょう」とも語っている。

「2年後くらいには一定の形を残すことを目標に、若手の先生方の教育や診療科の充実に力を注ぎたい」と、目の目標も揺るぎない。

「ものを創ることへの漠然とした憧れがあった」という杉本部長。なにもない空間に形をつくりあげる建築家の仕事に夢を描いていたというが、それが医者になって以降、新しい組織や診療科の立ち上げに率先して関わるエネルギーに転嫁したといえるのかも知れない。

仁淀ブルーの青さを体験

趣味がなかった。日本酒の美味しさは地域へセッセと出向いた時期に教えられたが、「だいたいインドア派」だったせいか、外で遊ぶという発想がなかったらしい。それでも、あれこれ探しているなかで、カヤックに会い、田舎に行ったついでに川に行き、たまたま「仁淀ブルーの青さ」を体験した。四万十川のゆったりした流れにも浮かんでみた。「これはきっと趣味に



▲工作中的のひとこま。町田看護師長と

▶ 風に吹かれて悠々と…



▼ ドクターヘリ、いざ出勤!



なる!」。とうとう飽きずに続けられそう。それを密かに期待されてもいよう。

二児のパパだが、「家では寝てばかり」。ほんわか温かい家族に、日頃は口に出せない感謝の気持ちを抱きつつ、直近の課題に精出す慌ただしい日々が続いている。

学会初！「研修医奨励賞」(2013年6月) に続き「専修医奨励賞」連続受賞

近森病院消化器内科
梅下 仁

2015年6月20、21日に行われました日本消化器病学会四国支部103回例会におきまして、「EUS-FNAで診断し得た下大静脈原発平滑筋肉腫の一例」という演題名で発表し、日本消化器病学会専修医奨励賞をいただき、来

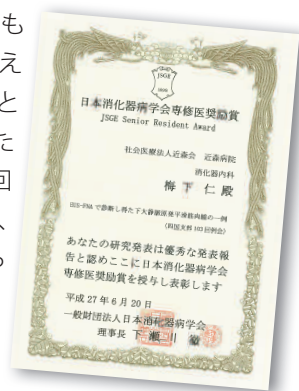
年の消化器病学会総会への招待を受けました。下大静脈原発平滑筋肉腫は術前診断し得た報告が非常に少ない稀な疾患です。

EUS-FNAは超音波内視鏡下に病変を描出し針生検を行う検査ですが、今

▼榮枝主任部長(右)と共に筆者



回の発表の症例のように血管壁原発の病変であっても比較的安全に行える検査であることを発表させていただきました。今回の受賞を励みに、今後の診療にさらに精進していきたいと考えております。



うめした じん

新近森リハビリテーション病院 ● 内覧会と引越し

- ・内覧会のご案内 8月22日(土)
 - ・引越しのご連絡 8月29日(土)
- ※ご協力よろしくお願いたします。

近森病院での一カ月

AO Trauma Fellowship unit で研修に来ました。

▼王凱群さん(左)と衣笠整形外科統括部長



ワン カイ シュン
王 凱 群 (AO Trauma Fellowship unit を通じて台湾から研修に来られました)



2014年5月、AO Trauma Asia Pacific Scientific Congress(骨折治療に関する研究グループ主催の学会)で、私と陳医師が研究発表した「生体力学的研究・大腿骨転子部骨折における大転子または小転子の治療(固定)」に最優秀講演論文賞をいただいたことがきっかけで、AOが認定する世界的な骨折治療の施設で6週間研修できることとなりました。どこで研修を受けようかと考えたとき、私の頭にまず浮かんだのは日本でした。日本へは毎年旅行に行っており、ぜひこのチャンスで日本の医療を学びたいと思いました。

驚いたことに、AOが認定している日本の施設は、東京や大阪ではなく、高知県の近森病院整形外科でした。私は、これまで何度も日本を訪れましたが、高知へは行ったことがなく、高知について知っていることといえば、私

の好きな「広末涼子」の出身地ということぐらいでした。私は急いで日本語のレッスンを受け、近森病院での研修が始まりました。

私の近森病院の印象は「スペースシップ」です。大きいだけでなく、とても美しく設備も整っていて、なんとすばらしい環境なんだと思いました。みなさんととても礼儀正しく、家族のように私を歓迎してくれました。また、近森病院整形外科の医療技術に感銘を受けました。衣笠医師は、世界的に認定を受けている施設として、当然のように英語でカンファレンスを行い、入院患者、外来患者を丁寧に診察し、そして若手の医師を育てることに尽力しています。私は同じ手術着を着て、手術に参加できることを大変光栄に思いました。言語が違えども、とても充実した現場を味わうことができ

ました。

井ノ口医師(通称“タカ”)による上腕骨近位端骨折におけるロッキングネイル手技、西井医師と三宮医師のイリザロフ創外固定、上田医師と小田医師による橈骨遠位端骨折における髓内釘固定術など、数多くの貴重な手技を初めて経験することができました。彼らの指示のもと、私は骨のあらゆる部位においてすばらしい手技を学びました。私は、近森病院の整形外科こそ、日本のAOセンターであるということをはしひしと実感しました。

病院で出会ったすばらしい方々のおかげで研修生活を楽しく過ごすことができました。ありがとうございました。ここでの経験は医師としてこれからの道しるべとなることでしょう。そう遠くないうちに、みなさんと台湾でお会いできることを願っています。